

平成 30 年度第 3 回伊勢市総合計画審議会 議事要録

- ◆日時 平成 30 年 10 月 23 日（火）19：00～20：20
- ◆会場 伊勢市役所 本館 地下会議室
- ◆出席委員
山本 誠委員、美濃 松謙委員、宮崎 吉博委員、西村 純一委員、西村 幸泰委員、
三村 和也委員、新田 均委員、福井夏美委員
- ◆欠席委員
森 裕美委員、竜田 和代委員、永井 正高委員、山本 康史委員、酒徳 雅明委員、
岩崎 良文委員、浅野 聡委員、
- ◆出席職員
情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局参事、企画調整課課長補佐、
企画調整課主査 2 名】
環境生活部【環境生活部長、市民交流課長】
教育委員会【教育事務部長、学校教育課長、文化振興課長】
健康福祉部【健康福祉部参事】
危機管理部【危機管理課長、防災施設整備課長】
消防本部【消防課長、予防課長】
産業観光部【産業観光部長、観光振興課長、観光誘客課長】
都市整備部【都市整備部長、都市整備部参事（兼建築住宅課長）、都市整備部参事（公
共交通担当）】
上下水道部【上下水道部長】
総務部【総務部長】
- ◆議事概要
委員の交代 池田ミチ子 委員 → 宮崎 吉博 委員
（1）第3次伊勢市総合計画の進行管理について（諮問）
（2）事務局からの説明（・第3次伊勢市総合計画の進行管理について）
資料 1（第3次伊勢市総合計画実施計画）、資料 2（第3次伊勢市総合計画進行管理
シート）について事務局より説明。今年度事業が終了する来年度から進行管理シート
を活用した進行管理を図っていききたい。今年度の進行管理については、基本構想・前
期基本計画に照らして、来年度事業の立案及び進行管理シートの構成について意見を
いただきたい。

◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておきませんので、ご了承ください。

進行管理全体について

- ・実施計画には、どの事業に力を入れていくのか分かりやすくするため、取り組む事業それぞれに H29 予算（実績）数値を入れ、比較できるようにしてほしい。また進行管理シートには、H30 以降の進行管理、評価のため、事業欄（予算）の下に事業費（実績）欄を追加してほしい。
- ・前期基本計画の序章に示す「財政収支見通し」に対応する内容が見当たらない。財政収支見通しがどの程度変わってきているのか、毎年見直したものを記載しないと、個別事業の予算増減を見るだけでは総合的な判断ができない。
- ・重点課題に取り組むためにどのような創意工夫がなされているか、資料から見るできない。意図と自己評価が言葉で見えないと、正しい評価につながらない。
→実施計画の記載、進行管理シートの様式自体の見直しなど、今後に向け、検討させていただきたい。
- ・7つのまちづくりの主要課題そのものを対象にして、1つずつに対する成果や達成、また個々の節に対するどこが弱くてどこを変えるとといった県のような成果レポートをつくと議論しやすいのではないか。
→県作成の成果レポートのようなものは考えていない。進行管理シートの中で、節ごとの実績や見通しを示し、PDCA のサイクルをまわしていければと考えている。
- ・課題的なものを詳しく書かないと、次の事業に対する意見が出しにくい。
- ・進行管理シートだけでは、7つの主要課題の達成度が見極めにくい。節ごとも実績と見通しを詳しく書かないと、次の事業に対する意見が出しにくい。
- ・個別の事業の成果に焦点を当てすぎると、大本である主要課題の達成度を測ることが忘れられてしまう可能性がある。
→意見として伺わせてください。
- ・市民が伊勢にいる誇りや意味を感じ、素晴らしいところだから来てほしいというような思いになるような取組が各分野で言えるようにしてほしい。
- ・重点課題「★」と7つの主要課題と関連した課題「◎」の表記が何か分からない。
→基本計画の製本した冊子には分かるように示したが、実施計画、進行管理シートについては、来年の課題として修正します。

第1章

- ・【第1節】「自治会コミュニティ放送設備補助事業」が30年度で終わる事業となっているが、市長へ継続してもらえよう要望書を出している。
→要望書を見せていただき、内部で方針を協議しているところである。

第2章

- ・何に力を入れているのかよく分からないので、その点を教えてほしい。
→分野ごとの事業費計を示した。来年、進行管理の中で評価をし、芳しくないものについては、予算の配分を変えるなど、今年が計画の初年度であり、過去との比較ができない資料の作り込みのなかで今後分かるようになっていくと考えている。
- ・「予算を増やす」と「重きを置く」はイコールにならない。各所属がどのような思いで、予算を編成し、どういう重きを置くのか分かるようにしてほしい。
- ・30年度の事業予算は、計画策定より前に予算が編成されているので、難しいところもある。今後の課題として検討してほしい。今日はあわせて、計画策定後、30年度事業を見渡した時に足りてない事業についての意見もいただきたい。
- ・【第1節】重点課題21Aで「伊勢を愛し、伊勢を大切に思う心を育み」とあるが、21Aに対応する具体的事業無い。伊勢を愛し、伊勢を大切に思う心を育む取組や、社会参画力を養う取組を、ぜひ来年は21Aの取組に入れていただきたい。
- ・【第1節】重点課題21Bで道徳教育や人権教育を掲げており、人権教育の取組はあるが、道徳教育に関しては事業が無いので、何らかの取組を入れていただきたい。
- ・【第1節】課題21Eで不登校を生まない環境整備を掲げているが、長野県安曇野市では実質不登校0の取組がなされ、書籍にもなっている。是非成果を挙げているところの調査をお願いしたい。
- ・【第3節】最近、スポーツに係る不祥事が多いので、スポーツにおける倫理とか、指導者倫理を向上させられる取組を入れていただきたい。
- ・【第4節】課題24Aに対する取組を見ると、施設に対する取組ばかりで、民俗行事の維持などの取組がない。むしろ観光施策のほうにまわされている。計画の答申にも触れたが、維持に課題がある行事などについてどうするかを、観光など複数の分野の連携や協働により取り組んでいただきたい。

第4章・第6章

- ・【第6章第4節】今後予想されている人口減少にどのように対処するか。そのためには雇用の創出が一番大事と考える。伊勢に住みたいけど住めないのは残念なことである。観光誘客も大事であるが、それが雇用に結びつくようにしなければならない。それに関連して障がい者の雇用を考えていただきたい。障がい者の雇用状況を見ると、大きな事業所より個人商店や家族的な工場のほうが雇用されていることが多い。そういったところに対し市として後押しができないか。
- ・【第4章第3節】三重県は6年前に全国に先駆けて社会的事業所制度を作ったが、あまり大きく取り上げられない。一般就労、福祉的就労ではない第3の就労の道として期待されたが、県内でも固定された企業のみが取り組んでいる。障がい者と健常者が一緒に働ける場が広がるよう工夫ができないか考えていただきたい。
→福祉的な観点の社会的事業所の取組は「第4章第3節 共生」、一般企業に対する障がい者の雇用の取組は女性、高齢者とあわせて「第6章第4節 就労」の課題と

捉えている。小規模事業者への障がい者雇用に係る助成制度などは現在ない状況である。

- ・来年に向けてそのような取組を検討していただきたい。

第5章

- ・【第3節】都市部では救急車を呼ぶ前に、呼ぶべきかどうかを尋ねるダイヤルがあると聞く。地方都市に普及していないのか。本当に必要な人が救急車を呼べない状況を聞くので検討いただきたい。

→県の医療救急情報センターで尋ねていただけるサービスがある。

第6章

- ・【第3節】課題63Fで「地域を愛し高い市民力を持つ人材、次世代の担い手の育成」とあるが、伝統行事の継承事業の一つしか取組がない。人を呼ぶことには熱心であるが、現存している伝統行事を市民が維持していくことに対する関心取組が弱いのではないか。複数分野で連携して取り組んでいただきたい。

第7章

- ・実施事業の中で県の事業に対し市が予算負担しているものが見受けられる。なぜ市が負担する必要があるのか。

→県の事業については、市が負担を持つ決まりがある事業があり、それに基づいて必要なものについては、市も負担しながら事業を進めてもらっている。

第8章

- ・【第1節】総合計画の認知度を上げる具体的取組を次年度は入れてほしい。また「まちへの愛着」を上げるための取組を事業概要に入れてほしい。
- ・【第2節】行政組織力を高めるために、人材の育成に取り組まれると思うが、研修の方針だけでなく、研修の具体的中身をもっと明確に示してほしい。また、採用時から心構えを整えるような採用方針なり、採用方法を工夫できないか。